

布施谷川・新川排水路及び具喰川
内水氾濫対策検討会について

具喰川流域の最終提言と見直しはどうか。

今後若干の修正を加えながら本年度中に取りまとめ、一日も早い事業化を望んでいる。排水ポンプの増強は平成27年度中の完成が目標。済生会病院隣接の逆流防止樋門から刈谷田川右岸分岐点間の無水区間の活用方法は、今後設置する連絡会議で検討する。

家族介護者に対する直接支援の拡充について

精神的負担や肉体的疲労を伴う介護者の慰労と生活支援を図ることから、現行の月額5000円を大幅に拡充する考えはないか。

要介護者数も増加傾向にあり、財政状況や福祉制度全体を考慮した中で理解いただきたい。

官民格差について

時間外手当年額約28.5万円、月額23万円余になる。期限付任用職員月額16万円程、市役所内での格差。民間の非正規労働者においては年平均値16.8万円との調査もある。不公平感を解消する考えはどうか。

給料、単価は職務責任や仕事の複雑さ、困難の度合いなどで定めており妥当なものである。時間外の多くは

災害復旧関連である。

認知症高齢者をどう支える

認知症高齢者が増えているが、どのような対策を考えているか。

平成24年3月に認知症高齢者等支援の推進に係る基本方針を定め、認知症に関する普及啓発や各地域包括支援センターと連携を図りながら、認知症高齢者等を地域全体で支えるまちづくりを目指して取り組みをしている。認知症の人を理解し、支援していただく認知症サポーター養成講座を開催し、5538人もの方々から受講してもらった。

訪問介護と通所介護を市町村の事業へと移行する方向で制度改正がなされるようだが、市の考えはどうか。

介護予防給付事業から地域支援事業への移行については、国より詳細な制度設計づくりが行われている。全



認知症サポーター養成講座

新保裏館線の進捗率は今年度末で80%を予定。今後はJR施工の跨道橋と市施工の擁壁工事を並行して行い、平成27年度末までの完成を目指す。田島曲淵線の未着工区間は、財政状況や交通量を踏まえて着手時期を検討する。

工場の祭典の成果と課題について



来場者も興味津々

先般開催した「工場の祭典」の評価と今後の課題は何か。

来場者は5日間で約1万人。うち4割が県外からのお客様で、製品売り上げ、飲食、宿泊、バイヤーとの成約や工場への就職など想定外の成果も上がった。来年度は工場見学ノウハウの共有化を図り、お客様からいただいた指摘も反映させる。

アベノミクス効果、実感まだ!?

安倍政権の経済再生政策の市内産業

国市長会を挙げて利用者が継続して同様のサービスを受けられるよう市町村の実情を踏まえた国の支援と財政措置を講じるよう提言を行った。三条市では、26年からの第6期介護保険事業計画策定に向けて準備を進めている。国の見直しの動きを注視し、計画策定の中で慎重に検討を加え、混乱を生じさせないよう適切に対応する。

清掃センターにおける業務の民間委託について



清掃センター

運転業務は市の職員が監視する体制になっていたか。また、要求水準書通りの人員配置か。ごみ破砕機内部を写すモニターはなぜ最初から設置しなかったのか。安易に経済優先で行ったのではないか。

清掃センターは適切に管理し人員配置は契約通り。また、モニターを設置しなかったのは設置業者が決めた。

への波及はどうか。

景況感そのものについてはある種の浮揚効果を感じている経営者が多いのではないかと。他方でハローワークの求人募集賃金を見ると、前年との比較で職種を問わず平均値として増加していない。新規雇用への意欲はあるものの、賃金増加には至っていない。全般的には三本の矢による金融緩和・財政政策により一定の効果はあるものの、リーマンショック以前の状況には戻っていない。三条市も、「売れるものづくり・売れるしくみづくり」支援事業、成長産業分野進出支援事業、次世代創造産業プロジェクト事業の3つの柱を基軸に支援のアクセルを踏み続ける。

三条の農業と6次産業化の可能性

農商工連携のために行政が果たすべき役割は何か。
本市の農業が発展していくためには一層の所得水準向上の取り組みが必要で、価格競争から脱却し、新たな付加価値を加えて市場に打って出ていく農業者に対してより積極的に支援していく。

農業問題について

国が5年後に減反廃止の方向を示した中で、市長は減反廃止に賛成、大規模農家に補助金を限定することに反対と回答していた。来年度減反協力

「湯のつ」ツッポラーテの経営について

利用者は低迷で、レストランはくちゅうに対して少な過ぎる。レストランはくちゅうとゴツッポラーテの利益割合はどうか。また、自信があるなら利用者アンケートを取るべき。成果は着実に上がっている。また、アンケートはやらない。

交通安全対策について

死亡事故が多発。三条市、三条警察、三条市交通安全協会の3者の連携はどうか。また、夕暮れどきライト早目の点灯運動の推進運動の成果は上がっているか。ライト早めの点灯は呼び掛けだけでいいか。罰則を含む条例化の検討が必要でないか。高齢者などに交通安全意識啓発活動を進める。条例化の必要はない。

新市建設計画の達成見通しについて

新市建設計画は、平成26年度に計画期間の最終年度を迎える。将来都市像を実現するための7つの基本目標に基づく施策大綱の達成見込み、主要事業の完了の見通しはどうか。

全99事業のうち平成26年度末までに74事業が完了する見込みである。残事業については、一日も早く完成する

金は半減となり、5年後に廃止となる。作付け条件の悪い中山間地農業は、立ち行かなくなるのではないかと。需給バランスによって価格が決定されている。供給サイドだけでコントロールは難しいと思ひ、減反見直しは時代の要請と考え賛意を表した。補助金をどう組み合わせるかだと思ふ。国に働きかける場面も出てくるのではないかと考えている。



どうなる農業

新一般廃棄物最終処分場について

下田地区の桑切、笹岡、中野原に10万平方メートルの用地を確保して整備する計画が示された。地権者、地域の同意を得ることが前提と思う。どの程度の範囲まで説明会を開く予定なのか。

指摘の通りと思っている。関係する自治会に随時説明会を開いている。われわれの思いを受け止めていただくためにも、何度でも、どこへでも説明

都市計画道路の見直しについて

新保裏館線の完成および田島曲淵線未着工区間の見直しはどうか。

よう着実に事業推進を図っていく。

三条市の行う事業は全て着手済みだが、遅れている事業がある。県の行う事業でも遅れている事業があり、中には未着手の事業もある。計画期間終了時において完了しない主要事業の位置付けはどうか。

県事業についても事業着手に向けて要望していく。計画期間終了後の残事業は、これまで通りの歩みで着実に事業推進していく。

計画期間終了時には、新市建設計画と合併の総括を行うべきと思うがどう考えているのか。

総括は合併後10年という期を捉え、来年度終期を迎える三条市総合計画の総括を行う中で同趣旨の総括を行っていく。

校外学習スクールバス事故の検証について

9月議会では「警察署の捜査が継続中で、原因はその結果により判明すると考えている」との答弁だったが、その後事故の原因は確定したのか。

警察署では、運転手の不注意が原因で、その背景には道を間違えて動揺したことがあるとし、自動車運転過失傷害の疑いで書類送検したとのこと。